

松屋筆記

卷世一

64

45
1397
15



門 15
號 1397
卷 15

昭和三年六月八日
高田早苗

The following is a list of names
 and their respective titles
 and positions in the
 various departments of
 the Government of
 the State of New York
 as of the 1st day of
 January 1880.



松平 重政 大藏卿
 松平 重政 大藏卿

松平 重政 大藏卿

⑨ 長巻結書

⑩ 様殿子子此生并様子兵

衛尉を授

⑪ 異国と合致

⑫ 假名書の勘字

⑬ みぎり

⑭ 上皇

⑮ 鶴脛

⑯ 山名々々とおいらんて何海の

るもきりか

⑰ だまん

⑱ 鷹の爪と茶の名

⑲ はどうり雨

⑳ 祝をとりてる吉瑞

㉑ 多生相類は不食

㉒ 茶の始

㉓ 左相様司の大鼓

㉔ 日本紀多宮歌并深鹿

秋抄の歌

㉕ 如色の雲々

其 神戸司 弁 鬃 寺 壹 神 奴。

其 牧 屋 吹 帳

其 酒 田

其 松 子 中 の 王

其 延 の 小 状。右 状。口 状。復 者 男

世 正 戸 寄 戸

世 権 大 領

世 下 子 人

世 今 来 の 子 女

世 鎮 の 吉

其 面 の 青 色 を 厚 ま り じ ゃ

其 目 録 弁 瞳

其 大 新 島 を 写

松屋筆 記卷廿一

松屋 高田興清文儒稿

一 かり

評をかりとりて 妹がう人のかり我かり
又うとよめ此かりと
りし詞あり 浮氏みゆつぐ 子松子あや
すーやあふバとえと今今の俗言よか
シラガルアウシラガんねとのかりとあや

二 ども

従とよめ此あつたり助詞をよめらば

けいごの男も女も人ごもわじりある
為仲朝王家初度百有門田身由
お政歌子

さよあけい高とさるるのれよ
向の向の向あさうぶい今の信
あまてあつささつらあし助
あつささあつささあつささ
あまよ次あるるあまあつ

三 白地真子をい言例

石川年足朝王家礎子 振津岡嶋

上郡白髪郷酒垂山とろ和た抄
真髪とまき今七真上村とろ新撰
姓氏録る白髪部を真上部と改色
代記子白銅鏡をたスノカビとまき万
景七花子白抄お丹保布信とまき
子真出の白きこりし

四 残菊

残菊の寫り
十月分
残菊の寫り
後菊の寫り
大井川行幸和歌序より
文庫

雑曲
舞上
同
猫は
同
口
は
純

思ふたつたのさめとぬらしてはさ
りるまむるさるんかさるあすの世を
地み、るんとしてさくはつてさ
づー筆振るは秋下禁よる

四 腰折歌

西三條殿の懐中抄さくしとせし乳
とよめと歌の五七五七このちの詞の
つなきがさき地さくしをさしりあなり
五文字のつなき詞はるまをさお
わりやうさつなき詞をさるんげし

さくしとさくしと弱詞はるまをさよ
さくしとさくしとさくしとさくしと
武士のやれこつらよこさくしとさくしと
さくしとさくしとさくしとさくしと
みつたづーさくしとさくしとさくしと
い武士のやれみさくしとさくしとさくしと
おまのやれさくしとさくしとさくしと
おまのやれさくしとさくしとさくしと
おまのやれさくしとさくしとさくしと
おまのやれさくしとさくしとさくしと

此の言もさるる之を...
すも、言の...
しと...)

(六) 俱利伽羅不動

佛說俱利伽羅大龍勝外道伏一本
陀羅尼經釋名云如是或聞一時
佛在王舍大城。尔時寶幢陀羅尼
畢。凡善薩陀白佛言。俱利伽羅大
龍。以何因緣。若飲利。及以四足被
後。佛告寶幢陀羅尼善薩陀言。昔

幢

△
一本及白贊
只抄作智處

色究竟天。魔醯首羅。知勝城。
丁抄作... 無動明王。興一本外道。論。
只致。種。神。愛。成。智。二字時。無。動。明。
王。變。成。智。火。之。作。煉。知。時。有。九。十。五。
種。外。道。可。以。首。人。名。智。度。又。成。智。
火一本有。知。時。無。動。明。王。智。火。大。鈕。
愛。成。俱。利。伽。羅。大。龍。有。四。支。降。
三世軍陀利。跋。摩。都。伽。金。剛。夜。
叉。等。四。大。明。王。也。頸。王。有。蓮。名。知。
火。信。字。俱。利。伽。羅。高。十。萬。由。旬。

孝行云々。以上、俱利伽羅龍王陀羅
尼經の全文。秘密儀軌に収り。白
寶口抄不勤法下、此經を引り。是
冠注云。此經決是偽造也。智惠城、
是非、諸外道所造、偽造故、有如此失
と云。俱利伽羅不勤用、
大境。俱利伽羅龍王歡喜、
平盛系記。其外古書に所見あり。
俱利伽羅不勤の經別、偽經に
三種ありと云。

醍醐寺あり
清觀權現
如來龍王
三子、生也
故、安、伊都
以、鳩、明、神、託
直、云、我、河、加
龍、我、三、子、一
佛、在、世、時、年
始、歲、之、珠、被、諸
他、方、所、生、第、三
女子、在、醍、醐、山、浦

⑦ 清觀權現 并清觀
密の事、血脈抄中、卷、聖、寶、信、正、の
清、延、喜、二、年、二、月、七、日、清、觀、權、現
現、神、女、形、等、師、持、念、壇、上、降、臨、示
曰、我、是、河、加、羅、龍、王、女、子、唯、願、奉
如、意、輪、化、身、昔、大、唐、我、名、音、龍、王
住、此、寺、護、佛、法、故、彼、寺、号、音、龍、寺
龍、寺、是、惠、果、弗、位、寺、也、彼、法、師、
守、護、之、故、凌、万、里、之、時、濟、度、日、域、
皇、海、於、此、山、施、因、心、光、於、法、界、云、云

山敷或鎮三
喜法中我
海中舞交
三舞言云垂
法云教也地
申觀自在善
是也

所詮清澗權現者天竺在
池善女龍王也為守護龍
法來震旦住清澗寺又為守
護志果之秘法大師歸朝時
同船來于吾朝勸誘於高
其後又為所建延醍醐寺為
彼鎮守此時加于三水而為清
澗權現云云安子云記云
權現也と青龍權現也
法僧正の時示現するに三水を加へ

文字比沙山城名勝志九の卷
十一高峯の條に三日坂在神護寺
南十町許の善妙寺右清澗社前
坂路也云々又十一云清澗權現
日坂麓云々又十二云清澗河原出
於十野郷經中河村廻高尾
名麓末路大井川也云々勅撰
和歌抄出清澗島野郎高峯
云々宗般少書問云清澗
子名不々々や宗祇云云
碓氷州名

清和天皇
御代
丁未
廿三

下。信新在片西行

ウツクみーるねりるをきとひたり信

長川の山の白民新御撰高井上人

信胤や河津の空民なる尾山

ありのりきかたむ

○秘抄舞抄抜書

秘抄口決す秘抄舞抄よりしり

卷一の秘書信抄す○秘抄口決

異等卷一守護經法のみより伊豆

阿闍梨云卷首箇此法是凡て一法師

卷教

禪定仙院所祈毎月七日誦真言

禪所續壽長卷之由了相次依

院宣勤此所念誦卷所卷教

○同卷曼荼羅事のみより金剛城

万たうま金剛城者金剛座、

リニツイカキヲツキブカラセル也仍テ

号金剛城西域本見たり○同

卷種子事のみより以字為如の種

子事經説分明故也○同卷

通場觀事のみより問數箕光者

右印文

數算

イロコガタ

身金

之キ

何物乎。答。淨口云。數算者。梵
 語歟。何。四。加。知。一。樣。ウ。ソ。リ。シ。ケ。コ。イ。口
 上リ。ク。ラ。云。也。云。云。向。真。珠。宝。璣。者
 如何。答。淨口云。即。加。知。也。諸。知。知。也。
 云。云。○。同。書。異。名。身。卷。二。三。歎。身。の。身
 子。問。以。青。蓮。花。為。三。歎。事。如何。答。以
 淨口云。青。蓮。花。出。身。所。持。上。此
 花。甚。悲。表。示。也。妙。抄。此。者。青。蓮。華
 注。開。了。却。合。云。身。在。之。不。被。得。意
 事。也。指。量。之。觀。音。開。佛。性。心。蓮。

青蓮華

榕

悲怡

淨子

開。畢。臨。在。有。意。歎。云。云。向。以。青
 蓮。花。何。表。悲。悲。耶。答。淨口云。青
 蓮。者。普通。在。蓮。白。蓮。等。葉。ノ。中
 ソ。ト。ト。ト。併。以。眼。相。似。以。青
 蓮。慈。悲。所。眼。云。也。榕。青。蓮。似
 之。故。殊。用。似。花。也。云。云。○。同。卷。通
 場。觀。事。の。多。子。淨。物。者。ヨ。ロ。コ。ヒ。タ。シ
 下。訓。也。凡。悲。怡。微。咲。ト。テ。少。ホ。ウ。エ。ミ
 テ。ヨ。ロ。コ。ヒ。タ。シ。シ。ク。カ。散。息。也。云。云。○。又。云。所
 子。善。觀。之。中。等。一。利。根。者。也。云。云。○

檀那

同卷三秋事の多き鳳○後○上者鳳頭
笠○後○普通○以○知○祥○鳥○不○者○今○傳○用
鳳○後○上○同○卷○道○坊○記○身○の○考○子
或○傳○云○知○祥○鳥○金○翅○鳥○也○可○炎○色○
之○同○卷○三○秋○子○の○考○子○柘○榴○名○の○
知○祥○菓○之○同○卷○馬○鳴○法○の○考○子
像○句○欣○上○者○系○ラ○キ○ア○ワ○ノ○チ○ニ○ノ○也○之○
○又云薄○雙○紙○毛○真○言○何○迄○終○不
考○也○之○同○卷○左○考○事○の○考○子○花
嚴○經○音○義○云○具○云○檀○那○此○羅○卷

多○檀○那○此○云○施○也○波○羅○知○云○彼○岸○
也○多○云○到○也○言○施○能○到○彼○岸○也○大
乘○義○章○九○云○檀○者○是○外○國○施○此○名○
知○施○以○已○財○事○分○名○与○他○也

九長番結番

額○聚○大○補○仁○上○世○建○久○二○年○三○月
廿○八○日○宣○旨○二○所○大○神○宮○司○等○於○
正○社○且○者○為○長○番○於○權○官○者○以○
有○結○番○之○長○番○長○番○長○番○直
を○い○ふ○と○結○番○時○刻○を○限○じ○と○也

猿を既に付
しんの八の合
僧の身に二の持を
の名

皆し之を直に以てす

⑩猿の殿の子を生み并に提督猿の兵部尉に

類聚大補任下世に子首書云仁治

三年辛鳥羽少佐猿子三生を

而被授兵衛尉十云不思我兵と

之も殿の猿もつましと物のあらひ

ぬらんとする猿の兵部尉を授けられ

しとからしし位階管理の例

不考ぬ法盛衰記すの初を地考

合ひしし

⑪ 異国と合戦

異国と合戦の度にのり類聚大補

任下の是れ符子々々朝鮮軍記元

正記をしる人数のりしし可考

⑫ 假名書の掲書

假名書の文に嗣字にあるかりしり

子のりしおもくる人ありいはかとし度

厚法師の自らの新勅撰の序子二

高掲をしる日の名ありしるき

其の序をいはふりしる二知し

和歌の蘭字の初い年山紀蘭子奉

○三 みるういびり 其砂

左いヒタリといんヒタといいそ右い
ミギ(神)といんミギリといい
昔の記しと万葉集碑左乃一既
ヒウカシノウミヤと洲い
ミギリといんミギリといん
ミギリといんミギリといん
方い

みういんやちんい左の神
の神いんやちんい

○四 上皇

天蓬芽十四子天有六
極五去中王順之則治
九洛之事治成德備
天不載之此詔上皇
の字いんやちんい

○五 鶴脛

了いんやちんい
徳金母新橋

甘五十九夕

記りしよこも 鶴脛の字に 在子
雜篇 徐無鬼 牙二十四より

①六 山あがりよとばいそ時雨の

よきよき

為忠家初度百首 田中細代 頌

廣歌

氷菓のゆき半氏河の川浪子声
おきよあはれありうれひれい時雨
のゆきありはるきあやうやえん
とほりそん時雨のすき

顯廣の俊成のよき

①七 だま

新撰六帖一あるの歌 信實

川上田の時ありはるきあやう
とほりそん時雨のすき
鳥とあやう 誑しと鳥とあやう

①八 鷹の爪とよき

鷹の爪とよき 名ありき
鷹の爪とよき 名ありき
鷹の爪とよき 名ありき
鷹の爪とよき 名ありき

自此之起^方定始^宗以^神降^君臣上下奉
禮之^託宣^曰神明奉^禮木^身在^加
護^ところ^也

(廿二) 茶之始

事行^の方^合廿^五書^の
季^序禮^記
文^獻通^考
大^六
張^神代^辭廿^三
五^十才

日者社神道^秘考^記茶^木數^多
有^之石^傍佛^身有^之傳^教大^師所^持
產^立所^茶實^紀大^唐大^師所^求持^得
國^守治^郡冊^尾所^植弘^信寺^印月^城
祭^礼末^茶調^進之^社務^當參^之位^人

祝^之為^以淨^水此^茶園^之與^有大^奇
小^口月^奈刻^内流^為於^越寺^河子^也
茶^の子^類國^史日^本後^紀也^也
性^靈尊^經因^身也^也

(廿三) 左相摸司の大鼓

卜^部兼^右の^諸社^根元^記松^尾の^家子^也
仁^明義^和十^四古^始之^際如^霖所^先
是^左相^摸司^代身^野郡^家前^也
樹^樹作^大鼓^有茶^由是^考幣^及
鼓^の大^の字^比字^取り^て也^也 松^尾大^神以^祈

謝云

④日本紀實家及深處秘鈔の

歌

諸社根元記一言主神のまろ日本
宮歌を引く一〇ミカリタルキミガクル
クメガハニヒトフトミシハイチニセリケル
コトヲヨロヅヨカ子テウトルカサカツラキ
山ノキミノミカリニハカワツキヤム
ちの成りの何つう明りそい物とこ
おし又いしーのよるあちうもい

一あつるつりし為の神の神と

歌を引く一日本書木嶋の条

頭書深處秘抄第三木嶋一頁

和書加之少ツノサノヤクシガモトニ

クシナリトムルコノシノ神とあり深

處秘抄今い絶つ深處秘抄には

身が群書秘抄に年記収む

④五色雲

紫雲五色雲の伴儒の書子

云つと神書といふ書豊旗雲

世のいふところよりいふと大神詔雜
事記上イテ子天平神護三年打七
月七日^日午時迄于未二點^仁五色雲
立天^天天照坐皇太神宮乃鎮座^頃頃
宇治^上上^乃乃宇治山之峯頂^仁仁
縣^建建とあり

同書^二二神戶司^一一驛^身身當^神神奴^仕仕
リ^少少名^目目^己己^也也

延喜太神宮式 廿七 太神宮裝束^多多^内内^改改^座座^節節^帳帳^二二

件^高高一丈三寸^三三^又又^{廿九}廿九^區區^祭祭^宮宮^裝裝^束束^多多^改改^座座^一一^件件^七七^長長

尺^六六寸^廣廣^内内^改改^座座^一一^件件^長長^七七^尺尺^又又^廿廿^丁丁^瀧瀧^原原^宮宮^裝裝

束^多多^節節^改改^座座^二二^件件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^{十二}十二^又又^同同^下下

漱^原原^並並^宮宮^裝裝^束束^多多^正正^殿殿^節節^改改^座座^二二^件件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^十十

二^幅幅^又又^廿廿^伊伊^雜雜^宮宮^裝裝^束束^多多^正正^殿殿^節節^改改^座座^二二

件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^{十二}十二^又又^同同^下下^度度^會會^宮宮^裝裝^束束^多多

改^座座^節節^改改^座座^二二^件件^一一^件件^高高^一一^丈丈^四四^寸寸^廣廣^{十九}十九^幅幅^又又^廿廿^三三^右右^伊伊^雜雜^宮宮

裝^束束^多多^節節^改改^座座^二二^件件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^十十^幅幅^又又^同同^下下

改^座座^節節^改改^座座^二二^件件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^{十二}十二^又又^同同^下下

節^改改^座座^二二^件件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^{十二}十二^又又^同同^下下

件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^{十二}十二^又又^同同^下下

改^座座^節節^改改^座座^二二^件件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^{十二}十二^又又^同同^下下

件^一一^件件^長長^七七^尺尺^寸寸^廣廣^{十二}十二^又又^同同^下下

何とあるあるい皆酒田子ありまはる

ありま

① 松子中の玉

同書上松子大神宮の松
樹の松子中より琥珀玉一丸を採り
て之を

② 文の小状。右状。口状。使者男。

同書下松子念夜之句文乃小状
新し見天右状。不見。使者男。口状。天。所申極端。使者男。

者といふ小状。自書。右状。本文とす。

③ 正戸寄戸

同書下松子執中社直内人等正
戸寄戸所當官物依例收納念進
於二宮并念進。正戸。名シキ戸。寄戸。儼居の戸。信
屋の了り。とす。

④ 權大領

同書下松子度會郡權大領新

家権長とあり、大領、大郎司、少
領、少郎司、権子、任、を、権、大
少領といひあり

③ 下年人

日書下 下年人 後者男矢庭記去
了常重父子借存命 件下年
人 芳三重郎 字衣比奈 乃尉位人
芳也 ところも 下年人 とも 訂 歴 史 不
尺 之 一 也 下 年 人 とも 訂 歴 史 不
訂 之 暇 あり 時 子 引 是 之 一 也 一

御書下
今来の
下年人
世

④ 今来の下女

日書下 下年人 今来の下女一人病
恙とあり 今来の下女のり 大平記
今 之 下 年 人 とも 訂 歴 史 不
今 之 下 年 人 とも 訂 歴 史 不
今 之 下 年 人 とも 訂 歴 史 不

⑤ 鎖の巻

同書下 下年人 四巻 乃鎖 乃巻
一方 被押惣 念流 佐 和名 物 乃
鎖 乃 巻 乃 巻 乃 巻 乃 巻 乃 巻 乃 巻
乃 巻 乃 巻 乃 巻 乃 巻 乃 巻 乃 巻

④ 面の書きをよきと云ふこと

暁月坊高 詠の酒百首を歌ふ

ふねのまよふとあるうらな酒をさし
さゆくのほ 髪そのまゝとあり 今依る
面色の芳きと云ふは 幸のこゝろと
なり

④ 目の瞳 并 瞳

今依る目 仰る人又目をあか人を
よしのと云ふは クルナクと云ふ
穂物 瞳子目を己のつらさを酒

百首雑歌

多のぬき酒のちのい講佛と

よよ目こそ 髪をよと云ふは

目のかみと云ふは 瞳子の

こと

④ 太平の歌をよ

今依る太平の歌をよ 太平の歌をよ
よのいりし 人の髪をよと云ふは
百首雑歌をよ 太平の歌をよ
よのいりし 人の髪をよと云ふは

Handwritten text in a medieval script, possibly Gothic or similar, written in a single column within a ruled border. The text is dense and appears to be a continuous passage, possibly a letter or a short treatise. The ink is dark, and the parchment shows signs of age and wear.



